

組織目標評価報告書（平成27年度）

部局名：

附属図書館

部局長名：

沖 陽子

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標	<p>ラーニングコモンズを利用した「知好楽セミナー」を4回開催し、卒業後の新しい働き方のためにベンチャー企業や小売店の経営者等との多社会との交流の場を創出し、計115名の学生が参加した。</p> <p>学生の学修意欲を喚起するため、6回の学術展示を中央図書館2Fサルトフロrestaにて実施した。</p> <p>学生の「書く力の向上」を目的としたライティングサポートのために「レポート相談室」を開設した。また、ライティングサポートのためセミナーを開催し計134名の参加があった。その他レポートの書き方ワンポイントセミナーを6回開催し計71名の参加があった。そのセミナーを元にした小冊子「レポート書き方講座」を作成して学生に配布したところ、非常に好評であった。さらに、次年度は全学的なライティング教育実施に向けて検討がなされるところであるが、図書館としても連携しながらライティングサポート体制を整えていく予定である。</p>
<p>ラーニングコモンズを活用して、グローバル化時代を生き抜く人材輩出の基盤となる教育プログラムの実施環境整備、および他の部署と連携し実践普及活動などを進める。</p>	
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<p>モデル授業、セミナー講演会、授業サポートスタッフ養成のための講習会等の開催数・参加者数、授業実施マニュアル・ヒント集の作成状況</p>	
②研究領域	
②-1 目標	
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標	<p>平成27年度6月と9月分の博士論文については、論文要旨までは全件入力し、本文も12件登録するなど着実にコンテンツを増やし、総計で3万5千論文の全文を公開している。利用については、本学のリポジトリサーバに25万件のアクセス(クローラー等も含む)があった。本学のリポジトリサーバについては、スペイン高等科学研究院が作成している世界リポジトリランキングで国内10位(世界280位)にランクされている。また、貴重資料を使った公開講座「絵図をもって岡山を歩こう」は4回実施し、計149名の参加があった。11月に池田家文庫絵図展「京都と岡山藩」を岡山シティミュージアムと連携して開催し1,940名の入場者があった。さらに館内にて学部企画・図書館企画のミニ展示「岡大下暗し」「黒正巖先生と津島キャンパス」等を開催した。</p>
<p>岡山大学の研究成果を広く社会に発信するため、「学術成果リポジトリ」のコンテンツ拡充を進める。</p> <p>附属図書館が所蔵する貴重資料類を活用し、展示会、公開講座等を地域の公共機関と連携して実施するとともに、ホームページ等を通じて積極的に情報発信を行う。</p>	
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<p>学術成果リポジトリの採録論文数及びダウンロード数。展示会、公開講座等の参加者数及び貴重資料へのアクセス数。</p>	
④センター業務	
④-1 目標	<p>附属図書館利用者サービス検討WGで策定した将来構想に沿って異社会との交流する機会するためラーニングコモンズやサルトフロrestaでの「知好楽セミナー」を開催やライティングサポート等を実施を実施した結果、入館者数については中央図書館では前年比(4~2月)で1.3倍(13.8万人増)増加した。貸出冊数も同様に1.27倍(2.5万冊増)に増えた。鹿田分館でも利便性の向上を図った結果、前年度比(4~2月)で入館者は1.24倍(4.6万人増)貸出冊数も1.3倍(3,900冊増)に増加した。中央図書館の入館者数については、リニューアル前の平成25年度と比べると約1.65倍に増加した。</p> <p>学術情報基盤は、増大する電子ジャーナル経費に対応するため主要1社についてパッケージ契約から個別契約に変更した。この結果、読める電子ジャーナルが減少したが、論文単位で購読できる方式(前払い型Pay per View)試行導入して対応した。引き続きこの方式を本格導入をして学術情報確保に努める。</p>
<p>引き続き教育改革の一環としての新たな附属図書館構想の検討を進め、大学が実施するPRIMEプログラムに則した具体策を企画の上順次実施するとともに、前年度実施した利用者サービスの充実及び改修したエリアでの新たなサービスを実施する。</p> <p>計画的・効率的な学術情報基盤整備のため、全学委員会及び全学WGを開催して増加する電子ジャーナル等経費への対応策を策定し、必要なタイトル選定を進める。</p>	
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<p>貸出冊数、入館者数、電子ジャーナル利用数</p>	
【総括記述欄】	
<p>※管理・運営面についても検証した上で、今年度の達成状況を総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。</p> <p>平成27年度については図書館利用者等も大幅に増加したが、平成28年度からの60分クォーター制等の導入などにより図書館利用の影響については不透明であるが、学生からの人気の高いセミナーやライティングのサポートについて引き続き取り組んでいきたい。また、電子ジャーナルについては基本的には為替レートの変動等を要因とした財政問題ではあるが、購読タイトルなどを見直して研究基盤の維持に努めたい。</p>	